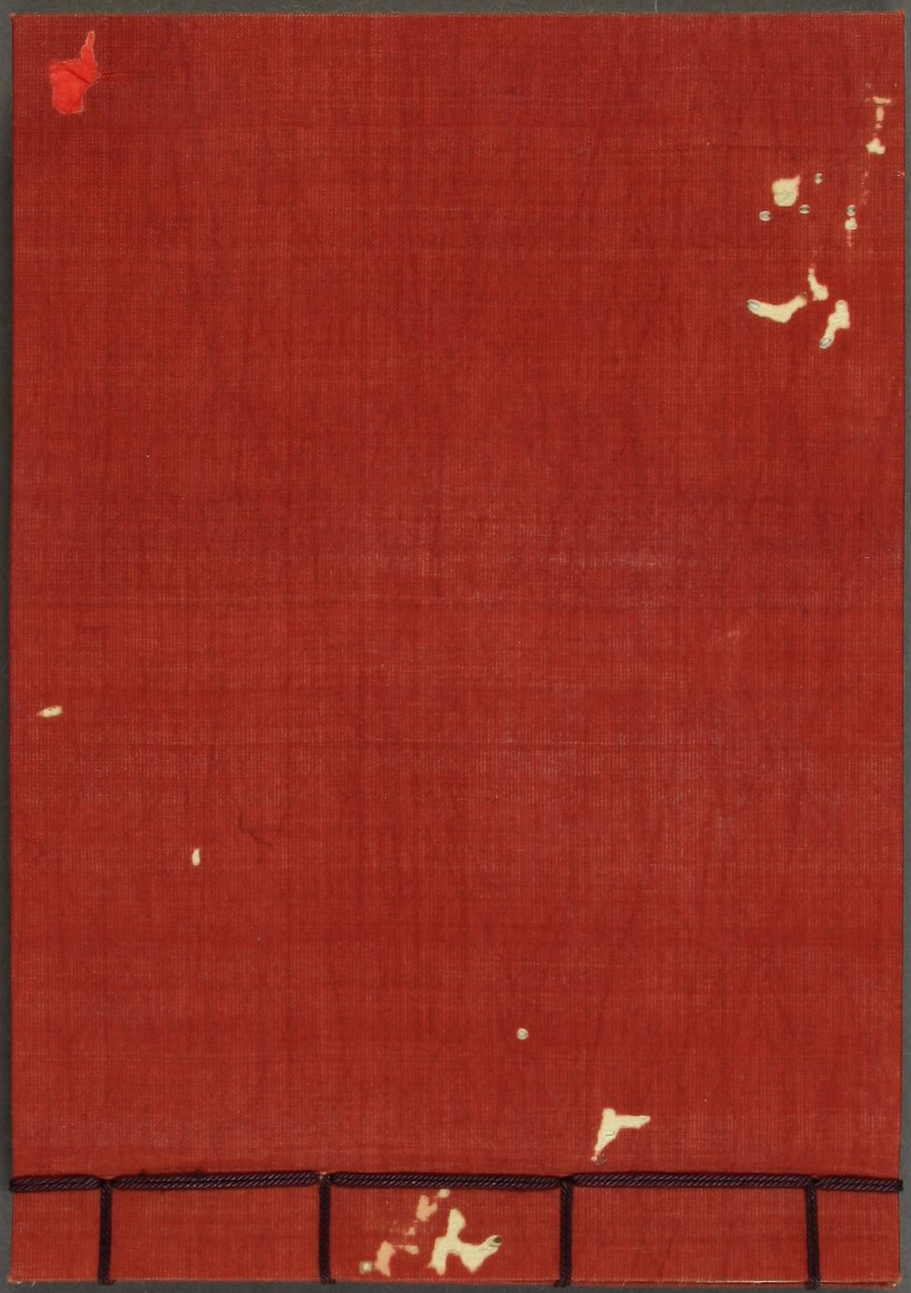

笥

竹川　并二

巻名次歌并詞書

竹川のそのよう
ものてもの
あるそのあ
世いも和と
年紀事
岩乾薫
才六十
ていつ
奥い
梅と

[illegible]
覚統ノ[illegible]人ニ[illegible]
今[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
九尚書若宿転之任
衛
衛之職也可撰其人

人のむこよ　雄のむこも

〜まあも

玲泉花のこ　ことあり

さまを思ふ　こころと思ふて

おそあも

なよ法そのい　玲泉花

とふりさけ見れば

あけとい　ふて等

信人ふりおく事

この

けいとそ

なよの　等

等結も

かるも　中のむ

こころの

玲泉花を

信しま事そ

よろこ

の行従の方へ来てる
うらつまで 行従をも中わ
年かとうも
はてしいろのあやめ あぬ君
桜の細もとを先ふるよ
ふてう婦君とそれこつ
もてる
言ふもりやんのもの
桜色よ衣ふくそあてき
花のうかんなのかうた

いとさき酒よ
冷泉院へまりねんも
たてをおひめ 中君勝
こ酒のさうも
三蘇乱舞も競馬の君
の勝よ、三蘇乱舞も参
左ふよをして
中君の方へ
君の住ふてよありたる
のまうもと左婦君の

あらいとそ　傍の人を
いるも
つきかへ　さねもとを改
をしてその　まことのよしなり
なりあそ
太上天皇　納妃例
寛平法皇　以京極御息
所為妃　大后時平女
右大殿　ナリ
この事ゆへ　とそ

言季札心知之為使上
國未獻還至徐徐君
已死於是乃解其寶
劍繫之徐君家樹而去從者曰徐君已死
尚誰予乎季子曰不
然始吾心已許豈以死
倍吾心哉

姫氏のものよりおそひ
あゝいかもとひサわ死
死をもいとはそくまこと姫君
も名はほき程よあれい
いそくれあるも
うそもくと
サわのみあるそ姫
氏の板ばさめも
もかでゝ屋りつん
宮おのうを不書改て

院習礼二三度ヨリ
ヨリ中院試ム
ノ外ヘノ出サヌ　多人
ノ如キヲ
ヨリテ　禁中ヲ
ヨリ踏哥ノ
ヨリ
紀ノ綿
日紋定踏哥ノ
藏寮二ノ奉拍綿
細也綿一連錄料綿

十連綿
糸三両就
之綿給作
之古来ノ
校遅ヲ
校ニ付
所ヨリ
先勅綱
言吹奏
計綿

踏哥ニ
奏祝詞
奏
綿

以前曲 着座 箏絃
酒者饌 次箏 唱行
酒曲 即立座 列女お
数曲唱後 奏舞
内侍二人各被綿 具舞
且退 弾箏 自簾中 出
奏我駒曲 退出
もゝしきの 前後と
うたひ物の事也
ひっともとゝく

奏の笛 退
前の笛 ふく事也
右宮 秋好也
ひとわたりふくをいふ
前のごとくふくをいふ
前のごとくふくをいふ
思ひ
前
我駒 右の宮を明年
宮ゟ帰り 参内也
ちくとう 奏舞也
のこゐ 前のごとくふくをいふ

の無の空方へもそれを
古方してその酒といふ也
兵名宮、秋好まるゝを
次より勅つゝの葉へ多
の事とこゝろ
宮の御局と
ひとつ処
私無のるゝ
ての事をいふ

源侍従と院
董と冷泉院のみ
ぬ
ほおのもと
内裏そ
うちそ
年も
万春楽
もとの
そのうた

中納言よろこびな
董中納言の妻と申さ
ばや也上古いかゝ向て慶
をも
おや人の座ゐて
同じ董の
向て拜を
見よとて家礼をも
拜をる事あるも
うとも拜をる事ある説

答動をう
あかうも
多うも無
子細の
よとうけて
ちをも
彼の公平 源氏をも
よろこび給ふ 董の綱も
我方へ拜をと行をも
ありをれとも 此うの